

2018年度(平成30年度) 上田市立第六中学校 自己評価シート(後期報告)

| 学校教育目標 | めざす子どもの姿(中期的目標) | 総合評価 |
|--------|---|---|
| 敬・和・創 | 敬: 人を敬い、人から信頼される生徒 和: 人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒 創: 自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒 | <p>年間を通して落ち着いた学校生活が送れており、生徒・保護者・職員のアンケートでも良好な結果が出ている。あいさつも廊下を行き合う時、さわやかなあいさつが所々で見ることができる。今後も続けていきたい。学習面でも、前向きに授業に取り組んでいる生徒が多い。また、宿題にも前向きに取り組もうとしている生徒が多く、授業とリンクさせながら、適切な課題の内容や量について検証をするとともに課題に積極的に取り組めない生徒に対して、個々の状況を考慮しながら、粘り強く指導していきたい。</p> <p>友達を大切にすること、六中の伝統である「黄色いリボン運動」を子ども達が何度も振替ながら、身の回りの差別やいじめについての感覚を高めている。</p> <p>本校の重点活動の柱の一つとなっている「歌声の響く学校」に関わっては、音楽の時間を土台として、先輩の姿に後輩が学びつつ、本年度も大きな成果を上げることができ、六中生としての誇りにつながる取り組みとなっている。金曜日のお昼休みには生徒が自主的に中庭で歌うことによって、学校全体に歌うことの雰囲気を作り上げることができた。</p> |
| | 重点目標 | |
| | 1 さわやかな挨拶、心を込めた清掃、楽しい給食 | |
| | 2 本気で取り組む合唱、人権感覚の高まり | |
| | 3 合唱や人権教育を中核とした開かれた集団づくり | |

| 領域 | 対象 | 評価項目 | 評価の観点 | 成果と課題(12月アンケートから) ※右の評価は職員アンケート結果 | A | B | C | D | 改善策・向上策 |
|-----------|------|--------------|---|---|--|-----|-----|-----|---|
| 教育活動 | 生徒指導 | 規範意識の育成 | 学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか。 | ほとんどの生徒がルールを守って生活できているが、完璧ではないと感じている生徒が増えている。 | 14% | 76% | 10% | 0% | 曖昧になっていることや問題点を自分たちで考え、明確にしなが、生徒会活動と連携しながら改善を図っていく。 |
| | | 素直さ・感謝の心を育てる | 職員は黙想から始まる無言清掃に生徒と共に取り組んでいるか。また、職員も生徒に進んであいさつをしているか。 | 職員・生徒ともに無言清掃に問題を感じている人数が増えている。あいさつについては、ほぼ良好な状態といえる。 | 36% | 45% | 20% | 0% | 清掃の取り組みに対して、たれ割り清掃を実施するなど実施した。取り組みを行った。あいさつについては定期的に見直しを図っていく必要がある。 |
| | | 開かれた学校・学級作り | 職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを発表し合える和やかな学級づくりに取り組み、楽しい学校づくりに勤めているか。 | 生徒の多くが、友だちの良さを認めあう雰囲気があるとしているが、そうでないと感じる生徒に配慮が必要である。 | 33% | 56% | 11% | 4% | 生徒が辛い思いをしたり、弱い立場に立たされていないか、常に職員が観察を心がけ、情報交換をしていく。 |
| | 学習指導 | 分かる授業 | 職員は学習内容をはっきりと伝えて、丁寧な板書をしたり、机間指導をし、分かりやすい授業にしているか。 | 「分かり易い授業だ」とする生徒が多く、職員も日々授業改善に心がけている。 | 33% | 52% | 15% | 0% | 今後も学力検査結果や授業での学習成果の見とどけをしっかりと行い、得意分野、不得意分野を情報共有して、対策を立てていく。 |
| | | 集中して取り組む授業 | 職員は、授業をチャイムで始め、生徒の発言を引き出したり、活動を入れたりして、一時間の授業に集中して取り組ませているか。 | 集中して授業に取り組んでいるとした生徒が増えている。ただ、中には集中に出来ない生徒もいる。 | 21% | 64% | 11% | 4% | 授業中の提示の仕方、端的な説明、テンポのよい授業と集中できるような方法の共有をしていく。 |
| | | 家庭学習への支援 | 職員は、授業の終末場面で、授業内容にかかわる家庭学習の助言をしているか。 | 本年度は、各教科毎に授業とリンクできるような内容を宿題を出した。ただ、生徒よりの取り組みの差が出てきてしまった。 | 32% | 54% | 14% | 0% | 課題に積極的に取り組めない生徒に対して、個々の状況に応じて、量等を考慮しながら、粘り強く指導していく。 |
| | | 道徳性の涵養 | 学校では、生き方や夢の実現について考えたり学んだりする機会を作り出しているか。 | 職員は生き方や夢の実現についての機会を十分作り出していると感じているが、生徒の感じ方とはややズレがある。 | 20% | 60% | 20% | 0% | 道徳の授業のさらなる充実を図るとともに、生徒の生き方や夢の実現に向けて企画・運営をできる意思が持てるような企画を進めていく。 |
| | 教育課程 | 歌声の響く学校づくり | 職員は、学活や昼休みに生徒が進んで合唱するように学級指導に取り組んでいるか。 | 大多数の生徒が「一生懸命歌っている」とし、自信を持って取り組んでいる生徒が多い。 | 39% | 43% | 18% | 0% | すばらしい取り組みを今後も高く評価し、教科担任と学級担任が連携しながら、六中の伝統として全校での響きを創り上げていく。 |
| | | 不登校・不応生徒への支援 | 職員は、学校生活や授業で困っている生徒の立場になって支援をしているか。 | 「学校は楽しいか」の質問に多くの生徒は楽しいと答えているが、なかなか学校・学級へ行けない生徒もいる。 | 20% | 53% | 27% | 0% | 生徒毎、理由等は別々なので、個別に担当者会議や支援会議等の行いながら、対応をしていく。 |
| | | 人権感覚の育成 | 学校では、人権感覚を高めるため、黄色いリボン運動や人権教育で、生徒が自分のこととらえるように指導しているか。 | 黄色いリボン運動など、積極的な生徒会活動の成果もあり、「人を大切にしている」と答えている生徒が大多数となっている。 | 41% | 52% | 7% | 0% | 長年行われている黄色いリボン運動の意味を再確認するとともに、定期的に関わる調査を実施し、教師自身も日頃の指導を見返していく。 |
| | | 生徒会活動 | 学校は、生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか。 | 多くの生徒が「生徒会活動に前向きに取り組んでいる」としている。 | 28% | 62% | 10% | 0% | 自分たちの活動が学校のためになっているという感覚が持てる活動となるよう、各委員会での活動内容を見返していく。 |
| | 学校運営 | 地域との連携 | 愛郷心の育成 | 学校はふるさとタイム、四者会議などを工夫して、より地域との連携を進めようとしているか。 | 多くの生徒が繰り返し地域行事に参加することで、地域への関心の高まりにつながっている。 | 27% | 60% | 13% | 0% |
| 地域から信頼を得る | | | 学校便り、学年学級便りで学校の様子を知らせ、地域の理解を深めるようにしているか。 | 学校からの情報を各種通信に載せたり、HPに載せたりし、積極的な情報発信ができています。 | 38% | 59% | 3% | 0% | 学校・学年・学級だよりの内容を吟味しながら、積極的な発行に努めるとともに、HPの更新を確実にやっていく。 |

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった